

「地域課題分野」（平成30年度採択）

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
開口部を有する斜め堰が河床変動，流砂および乱流構造に与える影響に関する研究	熊本大学 大本 照憲	A
<研究概要> 本研究では，白川水系および緑川水系における斜め堰の実態および河床変動については、文献調査および現地調査を基に検討した。室内実験では開口部を有する斜め越流堰において相対越流水深が堰下流の河床変動に与える影響および堰下流域に発達した局所洗掘および砂州の基本特性および河床上の流れの三次元構造について開口部のない斜め堰および直角越流堰との比較を基に検討した。開口部の存在は，洗掘位置が河岸から河道中央部に遷移させること，また高速域および下降流も河岸から河道中央部に移動することが見出され，治水・利水および環境機能の点から大幅な改善が図られることが明らかにされた。		
<事後評価コメント> A評価のためなし		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
- B：一定の研究成果があった。
- C：研究成果があったと言い難い。